会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 平成３０年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」Ⅰ．教職員の資質能力向上の推進　（ⅱ）教職員研修プログラムの構築事業 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第5回学習評価研修WG |
| 開催日時 | 2019年1月16日 14時〜17時 |
| 場所 | リファレンス駅東ビル 3F H-5 |
| 出席者 | 委員：岡村慎一、植上一希、佐藤昭宏、近藤賢宏、佐伯京子、森佳奈枝請負業者：飯塚正成 |
| 議題等 | ①プロトタイプを実施結果および今後の改善点について・ワーク、自分の経験をもとにやってもらえたのは良かった。こういう反応があったのはとても良い。→狙いにそっていた。もっと改善必要だが、ワークの重要性に気付いた。・自己紹介のワークに工夫が必要。麻生塾ではワークは省いたが時間が厳しかった。・2時間目のスライドp.43あたりの説明の仕方の順番とか、流れが交錯している。・資格と職業分野の対応を考えたときに、絶対評価、相対評価をどのように使い分けていけばいいのか、修正の途上にある。・用語の説明やこれまでのワードとの関わりを説明してほしい。・特に、2時間目のp.44、p.45、pp.47-49のワークの、取り組み方・方法が難しいように感じた。説明が必要。・事例を減らしてもいいので、ワークをもち込んだほうが良いのではないか。・p.59は、それ以降のページと違う性質。そこは、明確に分けた形でやっていく必要がある。・3時間目はワークになるような題材が多いので、ワークへ落とし込む。・時間が短すぎた。無理に内容を削るより、ちょっと長めにとってみてもいい。4時間半か5時間が妥当なのでは。・基礎編の目的を達成したのか、達成度がわかるような仕組みが必要なのでは。研修のフレームとして。・必要だなという気付きは得ているけども、それが行動変容にいたっているのか、そこまでではないのか、その辺りを認識が必要。・基礎編はそもそも知識の獲得と得た観点で、今までの指導を振り返り把握できるところまでがよいのではないか。・今回の目的の一番のポイントは姿勢づくり。実践に対して前向きな姿勢になるのは重要。そのうえで、用語集などを定義するのがよい。・はじめの目的のスライドは、もう少し段階を落とした形で提示したほうが良い。・タイトル設定も戦略的にやったほうが良いだろう。・専門学校教員の気づきと知識が紐づくような構成にしていく必要がある。・事前と事後のアンケート、あった方が良い。・他の先生がこの研修をやれるという視点で、やれるところとできないところを精査していく必要がある・パワーポイントで説明しているところは、資料の何ページをやっているのかをよりわかりやすく。章構成の区切り方もわかりにくかったので明確にする必要がある。最初に全体を説明する。・基礎編の最後に課題を載せる等、基礎編応用編を連続的に受講してもらうための構成にする必要がある。・グループディスカッションの頻度や信頼関係のありかた自体、学校によって違うため、設計に工夫が必要。冒頭の導入部分が改善の必要があるように感じた。・穴吹に訪問した際に、「外部研修に多く行っているが、『研修を経て授業改善しろ』と言われるが、講師の授業が下手」という、従来の各種研修に対するコメントをいただいた。講師側の設計、方法論も工夫が必要だと感じた。・受講生側のレベルの問題を踏まえる必要性がある。KBCでは、言語化できる印象だった。それが難しいグループだと、静かになってしまう。②今後について、・今回の実施結果および改善点を受けて、２月８日の成果報告会発表資料を取りまとめる。・発表者は植上・佐藤を予定する。・資料などの作成については、事務局と要連絡。 |

以上